

広島における第 52 回大会の思い出

副会長 志村清次郎

私は過般の広島市における秋季大会に出席するの機会を得たのであるが、一言にしていえば曾てない盛況であり、万事円滑に運ばれたことは欣幸の至りであつて、本会発展のため極めて結構なことである。惟うに地方大会の開催地はその地方の文化の中心地であり、かつその附近に鉄鋼ならびにその関連工場が多く所在することが第一条件である。そして今回の大会が盛大であつた理由は広島市が正にそれらの条件を充分具備していること、同市が大会の処女地であり会員諸君に魅力があつたこと、さらに時節柄暫く沈滞していたわが国鉄鋼業界も輸出の振興と国内需要の著しき増加とにより鉄鋼の生産は新記録を樹立し、業界は稀に見る活況を呈していること等の好条件が重複したことによるものと考えられる。そして大会の準備万端というにおよぼすその円滑なる運営に対する実行委員長、実行委員、多数の協力者の献身的努力は特筆すべきものがあり、また太田実行委員長の協力者として中国鉄鋼業協会専務理事神野修一氏の協力は終始筆舌に尽せぬものがあり、また地方有力会社においては本大会のため多大の援助を寄せられたこと等いづれも本大会が好都合に運ばれた主因であり、衷心万謝に堪えざる次第である。

今回の大会においては講演総数 139 で春秋を通じ従来最高記録であつて、出席者は 310 名で講演者ならびに聴講者も共に極めて熱心であつたことは喜ばしい。講演については各会場にそれぞれ世話係あるいは責任者をおき、予定の変更その他の突発的事態に迅速に対処するようにせられたことは真に結構なる新企画で、今後は常にかく致したいものである。

見学においては当方よりの希望工場の内会社の都合により二、三許可を得なかつた向があつた。また許可を得ながら八幡製鉄光製鉄所の如きは当日ストに突入の疑懼があり工場当局にてはかねて大いに心痛せられ、前日夕刻に到るまで極力これが回避に力め見学が円滑に運ばれるよう格段の配慮を重ねられたにもかゝらず遂に見学不可能の事態に立到つたことは真に遺憾であつた。私は光製鉄所を含む見学班に参加の予定のところこれを變更し三菱造船広島造船所、三宅製針、東洋工業の 3 工場を見学した。いづれも時局の反映により極めて繁忙の由にて広島造船所にてはオール溶接による巨大タンカーの製造はリベット時代に反し全く騒音なく、溶接ならびに造船技術の進歩を物語っていた。三宅製針ではわが国縫針の約 30% を製産するという広島県下でも最大の工場で原料針金の使用量月 10 t にてすべて輸出向とのことであつた。設備には近代式構想による幾多改善の余地があるよう考えられたが、製品は至極優秀で好評の由であつた。東洋工業の製品は主としてオート三輪車、サク岩機であるが工場や設備の配列、清掃の行届いていること等いづれも範とすべきで、従つて能率良好、製品の優秀を偲ばせた。アルミニウムダイキャスト、プロパンガス溶接、シェルモールド精密鑄物用砂の製造等非常に立派であつた。殊に後者は米国の技術導入によるもので、極めて均一なる型の製造可能の点においてわが国随一の優秀品の由である。見学では私が訪問した範囲ではいづれの工場でも格別の便宜を与えられたことを痛感したのであ

るが、他においても同様であつたと思つている次第で、その好意に対しては深く感謝の意を表したい。

次に大会に際しては別に 11 日夜金属学会と共同にて特別講演会を開き金属学の泰斗にして文化勲章の保持者であられる三島、増本両先生に御講演をお願いし得たことは洵に最高位の講師を得た次第であつて、本大会に一大光彩を加えたこと、信じ両先生の御好意に対し深く御礼を申上げるものである。当夜の出席者は約 500 名で中々の盛況であつた。高校生が大部分で一般の人士も可成りいた。当時折悪しく大学は休暇中で出席者は極く少数であつたのは遺憾であつた。また高校生も時恰も試験中で出席者は相当無理をした様子であつたが、熱心に聞入り実質的にも成功であつた。三島先生の御講話は真に結構であつて、難解の事項を専門知識のない若人にもよくわかるよう諄々説明せられ、近來にない名講演で、増本先生の有益なる御講演と相俟つて若人をして奮起せしめその内より将来鉄鋼金属の学問に向う者も相当現われるにあらざると思われた次第である。

さらに 11 日夜別に編集委員会が開かれた。その趣旨は地方支部の声を聞くにあつた。編集に関するもののみならず一般事項の意見も出た由である。その主なるものを挙げると次の通りである。講演大会の講演は数は非常に多いが内容のどうかと思われるものもまゝあるから量より質に重点をおきよく予め調査選択の上優秀なものみに絞るようには如何ということ、会誌の用語が区々であるから先ず当分毎号一編づゝにてよろしきゆえ当用漢字、新仮名遣による論文を掲載して参考に資し、逐次全体が改善せられるようには如何ということ、会誌においては従来圧延関係の記事の少いのは遺憾であるが、何とかこれを多くする方法を講じてもらいたいということ、地方支部主催の講演会の講演も中央におけるものと同資格を認められたいということ、これはそれ等の論文を会誌に掲載することおよび学術会議会員の選挙権獲得の問題等を含むものと思われる。鉄鋼技術協同研究会の成果は会員全体に配布して頂きたきこと。一般問題としては評議員選挙の方法をさらに民主的にしてもらいたいということ。大体以上の通りであるが、いづれももつともなことで、他の支部よりも同様の趣旨の申越の事項をも含んでいる。そこで十月末の理事会ではこれらの趣旨、要望につき討議した。そして経費等の関係でただちに実行困難なることは別として可及的に要望に添うよう努力することを申合せた次第である。次に懇親会は出席者数金属学会と併せて 180 名で三島、増本両先生その他の隠し芸も出で酒も沢山、近來にない盛況であつた。

終りに私は広島市街を一通り車にて見物するの機会を与えられたが、当市は 11 年前未曾有の悲惨なる原爆の破壊による不幸を蒙られたことに対し衷心弔意を表し、かつその後県市を挙げて復興に熱誠を捧げられた結果只今にては大略その実を収められたのみならず遙かに近代的に生れ変わり、さらに引続き全般的完成に力を致しおられることに対し満腔の敬意を表し、流石に中国地方第一の文化都市であるとの感を深うするとともに、さらに層一層の隆昌を致されんことを祈念するものである。